

平成26年度 明倫小学校 第2回 学校関係者評価委員会

平成26年10月21日(火)開催

■学校関係者評価委員

梅地 信吾	元明倫小学校長	元児童相談所相談員
富川 芳人	元県PTA連合会会長	元明倫小学校PTA会長
村田 明美	萩市児童クラブ指導者	萩市人権擁護委員
三上智奈美	元明倫小学校PTA副会長	主任児童委員
岩崎喜一郎	元明倫小学校PTA顧問	(欠席)
大嶋 栄	前明倫小学校PTA会長	
榮 中	明倫小学校PTA会長	
柳林 浩一	明倫小学校	校長
矢野 憲文	明倫小学校	教頭
村重 淳子	明倫小学校	教頭

■本年度の重点目標について

特色ある学校づくり	松陰教学の推進・積極的な分かりやすい情報発信
学力の向上	授業改善・家庭学習の充実
心の教育の充実	明倫小ABCの充実と発展(7mのあいさつ・無言清掃・目標挑戦)
安心・安全な環境づくり	教育相談や生徒指導の組織的関わり・落ち着いた学校生活

■学校関係者評価委員会での主な意見

○ 特色ある学校づくりについて

- ・歴史的建造物である旧校舎から時代に即した新校舎に移転した。教職員も異動で替わっているため、松陰教学の魂が継承されているか問い直し、原点に帰って「松陰教学プロジェクトチーム」で研修を進めている。2学期は、「朗唱の手引き」ハンドブック(児童用・教職員用)を配付して取り組んでいる。教職員が松陰先生の教えを自分の言葉で語れるかどうかがとても大切である。教職員は、異動で入った市町の教育方針やその学校で何を中心にしているかという意識をもたないといけない。松陰読本を時間をかけて先生方に読んで欲しい。明倫小学校は他からの期待が大きい。

○ 学力の向上について

- ・学力向上のためには、家庭学習の時間が不可欠である。保護者の意識の差が大きいのでどう伸ばしていくか考える必要がある。9月から低学年で20分、中学年で40分、高学年で60分をめやすにするよう呼びかけている。都会の学校は、もっと意識が高い。
- ・宿題は担任任せであるため、温度差がある。大まかなめやすが必要であり、検討事項である。
- ・1年生の時のしつけが大切。「させる段階」が必要。
- ・宿題に保護者がどれだけ関わっているかが重要である。アメリカでは、半数以上が関わっている。しかし、保護者の方も時間の兼ね合いがあり、難しい家庭もある。子どもは、保護者が一緒だと安心感が出る。0と1で違う。保護者の意識を掘り起こしていくとよい。小学校の時は算数や音読など親子で一緒に取り組むが、中学校になると手を離してしまうところに問題がある。
- ・児童クラブの宿題は、最後は家に帰って確認するように取り組んでいる。家庭の責任を残すように心がけている。

○ 心の教育の充実について

- ・あいさつの芽が確実に浸透している。卒業した後もきちんとあいさつをしてくれる。地道な活動がしっかりと芽を出している。ほめてやりたい。
- ・大きい声だけでなく、小さい声の子どものあいさつも受け止めてやりたい。
- ・あいさつができない子は、1歩踏み出すのに、心の緊張がある。大人からしてほしい。
- ・見守り隊が立つと、他の大人も子どもたちに声をかけてくれる効果がある。大人が子どもに声をかける雰囲気があるとよい。
- ・そうじに関して、前の校舎はいくらやってもきれいにならないが、今の校舎はやればきれいになる。子どもの意識を変える(児童会に働きかけ、児童の自治的活動を)。教師サイドだけでなく、子ども同士が働きかけるようにしくむことが大切である。子どもの力を借りるとよい。

- ・大人も子どももよかったと思えるようなめあてをもち、いい方向でやっていけるようになるといい。以前したアウトメディア大作戦では、親子でテレビを消し、ゲームや会話を楽しむことができた。子どもの感想にもうれしいと書かれていたし、親もよかったと思っている。今は、うれしい親子のふれあいが少ないのではないか。

○ 安心・安全な環境づくりについて

- ・学校の外では、なかよし登校をすることによって逆に嫌な思いするということが耳にしている。上学年が早く歩いてしまい間が空く。1年生を待つあげること大切だと教えたい。時に様子を聞いてみることも必要である。困ったことはないかという意識の目が教職員に必要である。班長以外の子どもの声を聞くことが大切である。
- ・年々暑くなってきているので、熱中症対策として教室にエアコンを設置してもらうよう、声を上げていくことが必要。
- ・いろいろな困りごとがあっても、学校や子育て支援課がすぐに夜遅くまで対応してくれるありがたい。

○ その他

- ・若手教職員の自主的勉強会は、すばらしい。すごいと思う。
- ・職員室が一つになり、メリットが大きい。情報の共有が素早くなった。
- ・内線が各教室につながっているため、先生も子どもの前で電話のやりとりに気をつける必要がある。

<コミュニティ・スクールに向けて>

- ・コミュニティ・スクールは、保護者・地域・教職員が一緒になって意見を出す場である。教職員中心となってしまうことが多い。
- ・コミュニティ・スクールを進めることで、先生が楽になるように考えて欲しい。
- ・評議員会はなくなる。地域に開放された学校であり、学校が地域のためになるように活動していかなければならない。
- ・話し合いの場が増えることや校区の中学校と委員が重なることも考えられる。地域の人ができることをすることが大事。
- ・コミュニティ・スクールにP T Aや学校支援ボランティアがどう関わっていいかわからない。
- ・コミュニティ・スクールは、管理職や一部の担当職員だけではなく、全教職員が参画できるものでありたい。
- ・コミュニティ・スクールは、法的に学校運営に参画することが保障されているしくみである。
- ・コミュニティ・スクールは最初から大風呂敷を広げると、教職員の負担が大きい。それが子どもへ影響してくる。忙しくないようにする配慮が必要。
- ・外部からの予算の支援が0なので、どこからお金を出していくのか予算を考えて動く必要がある。